

【研究主題】



豊かに考える子どもを育む教育課程の実現

新潟大学教育学部附属新潟小学校

研究主任 大矢 和 憲

1 目指す子どもと研究主題の設定

A I や情報技術の進化，グローバル化等がますます進むこれからの社会では，「知っていること・できることを発揮して何ができるか」が求められます。

このような社会をたくましく生きることができるよう，当校では，「豊かに考える子ども」を育もうと考えました。

【目指す子ども】「豊かに考える子ども」

目的や課題に応じて様々な資質・能力を
発揮し，課題解決する子ども

また，当校の教育目標は，「学びを生かす子ども」です。「豊かに考える子ども」は，これからの社会を見据え，教育目標を具現化した姿です。

私たちは，教育活動全体で「豊かに考える子ども」を育むために，どのような方針で教育課程を編成し，何を，どのように実施していけばよいのかを明確にしようと考え，前年度からカリキュラム・マネジメントを進めてきました。

今年度は，前年度編成した教育課程の試案を実施・評価・改善することを通して，「豊かに考える子ども」を育む教育課程を実現したいと考え，研究主題を更新し，カリキュラム・マネジメントを進めることにしました。

2 教育課程の基本方針

(1) 資質・能力の育成

前研究「学びを生かす子ども」の研究成果として，資質・能力を発揮して課題解決し，発揮した資質・能力を自覚した子どもは，他

の場面でも自覚した資質・能力を発揮できることが分かりました。つまり，資質・能力は，発揮し，自覚することで，他の場面でも発揮できる資質・能力へと育成されるのです。

この成果から，私たちは，「豊かに考える子ども」を育むために，子どもが様々な資質・能力を発揮して課題解決できる教育活動を行い，発揮した資質・能力の自覚を促すことを教育課程の基本方針としました。6年間の教育課程で，様々な資質・能力を発揮できるように育成していくのです。

そして，この基本方針を基にすべての教育活動を修正，計画（P）・実施（D）・評価（C）・改善（A）していくことにしました（※以下：PDCA）。

(2) 資質・能力の明確化

次に，私たちは，様々な資質・能力として教育課程で育成すべき資質・能力を明確化する必要があると考えました。

そこで，これからの学校教育で育成すべき資質・能力や当校の特色と子どもの姿から，「育成する資質・能力の五つの柱」（下図）を設定し，この「五つの柱」で，具体的な資質・能力を明確化することにしました。

育成する資質・能力の五つの柱	
①知識・技能	実生活や他の課題解決に用いることができる知識や技能
②思考力・判断力・表現力	目的や課題を解決するための思考力・判断力・表現力
③態度	主体的に課題解決に向かう態度 人や物事にかかわろうとする態度 自らを客観的にとらえる態度
④協働性	他者と目的や課題を共有し，互いのよさや多様性を生かして課題解決する力
⑤ツール活用能力	目的や課題に応じて，ツールを適切かつ有効に活用する能力

①～③の柱は、新学習指導要領における、「資質・能力の三つの柱」に準拠しています。

主に各教科等と各種教育で育成する具体的な資質・能力を整理し、「各教科等の資質・能力一覧表」と「各種教育計画」で明確化しました。

④協働性と⑤ツール活用能力は、これまで培ってきた当校の特色を生かして設定した柱です。この二つは、教科等横断的に発揮される資質・能力であり、すべての学習の基盤となる資質・能力です。

また、協働的な課題解決や情報技術の活用が求められるこれからの社会に必要な資質・能力であると考えています。

④協働性については、各教育活動における具体的な子どもの姿を想定し、活動計画等で明確化することにしました。

⑤ツール活用能力については、授業実践と当校の子どもの実態等から、活用能力の内容と段階（フェーズ）を整理し、「ツール活用能力一覧表」で明確化しました。

これら「資質・能力一覧表」等は、授業をはじめ、教育活動のP D C Aを行う際の拠り所であり、評価規準としての役割をもちます。

つまり、「豊かに考える子ども」を目指し、子どもに発揮させ、自覚を促す資質・能力を明確に設定して、教育活動のP D C Aを行うのです。

3 カリキュラム・マネジメント

今年度私たちは、「豊かに考える子ども」を育む教育課程の実現を目指し、次の四つの取組について、組織的・計画的にP D C Aを行うことにしました。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 豊かに考える子どもを育む授業 (2) 協働性の育成 (3) ツール活用能力の育成 (4) 各種計画等の実施と改善 |
|---|

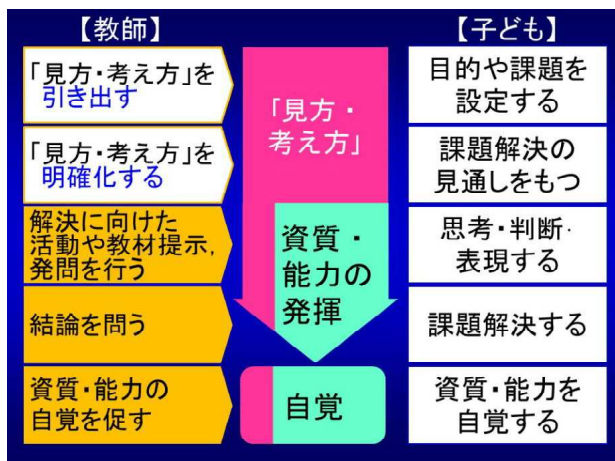
(1) 豊かに考える子どもを育む授業

「豊かに考える子ども」を育むために、最も重要な教育活動は授業です。

私たちは、子どもが自ら目的や課題に応じて様々な資質・能力を発揮し、課題解決することができるようにするために、大きく二つの授業のP D C Aを行っています。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ア 各教科等の様々な資質・能力を発揮し、課題解決する授業 イ 教科等横断的に様々な資質・能力を発揮し、課題解決する授業 |
|--|

どちらの授業でも、育成する資質・能力を明確に設定し、子どもが五つの学習過程（下図右側）を辿ることができるように、教師の働き掛け（下図左側）を構想します。



授業研究を通して、子どもが資質・能力を発揮し、課題解決できるようにするためには、子どもが【目的や課題を設定する】場面から【課題解決の見通しをもつ】場面において、各教科等の「見方・考え方」（各教科等における物事をとらえる視点や考え方）を子どもから引き出し、子どもが「見方・考え方」を働かせられるように明確化する、教師の働き掛けが重要であることが分かってきました。

なぜなら、この「見方・考え方」が、言わば目的や課題を達成・解決するための方針となるからです。そして、方針が明確であるからこそ、様々な資質・能力を発揮し、必要な情報を収集・整理、選択・判断するなど思考・判断・表現して、課題解決することができるのです。

このように、「豊かに考える子ども」を育む授業を、全教諭が各教科等において構想、

実践し、実践を分析・評価して、働き掛けを改善していくことが、授業におけるカリキュラム・マネジメントです。

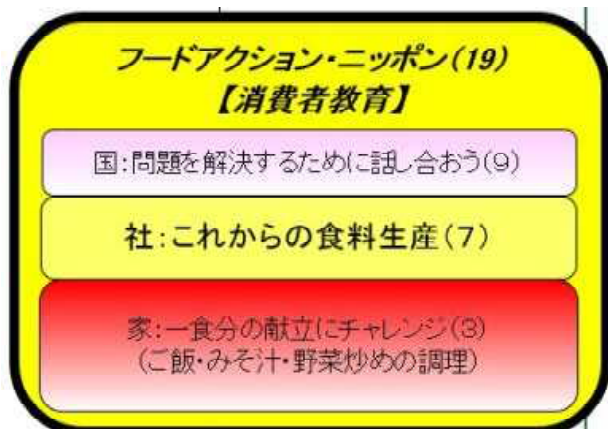
一方で、実生活や実社会では、教科等の枠組みはなく、目的や課題に応じて資質・能力を柔軟に発揮し、課題解決することが求められます。

そこで、私たちは、実生活や実社会においても豊かに考えることができる子どもを育てるために、子どもが教科等横断的に様々な資質・能力を発揮して課題解決することができる教科等横断的な学習単元を開発・実践することにしました。単元を開発する際は、「資質・能力一覧表」を活用し、次の視点で各教科等の関連を見いだします。

- 実生活や実社会の課題
- 各教科等で育成する資質・能力
- 各教科等の「見方・考え方」
- 各教科等の学習内容
- 各種教育（人権福祉・環境・文化・国際理解・食・安全防災・平和 等）
- 学校行事や児童会行事

例えば下図の単元は、消費者教育としての文脈で、国語科、社会科、家庭科、食育で育成する資質・能力を発揮して課題解決できるように開発・実践した単元です。授業は関連する各教科等の授業時数を合わせて実施します（※（ ）内が授業時数）。

各教科等の枠組みで、別々に学習するのではなく、各教科等の学習内容を一つの文脈で合科的・関連的に学習することができるように開発・実践しているのです。



また、授業においては、教科等横断的に様々な資質・能力を発揮することができるようにするために、子どもが【目的や課題を設定する】場面から【課題解決の見通しをもつ】場面において、複数の教科等の「見方・考え方」を子どもから引き出し、「見方・考え方」を明確化する教師の働き掛けが重要であることが分かってきました。

このように、教科等横断的な学習単元を、各学年で学期毎に開発・実践・評価・分析・改善し、年間指導計画に位置付けていくこともカリキュラム・マネジメントの一つです。

(2) 協働性の育成

これまで当校では、「附属新潟式学級力」（支持的な学級風土をつくっていきこうとする力※以下「学級力」と「対話する」スキル（相手の考えを分かろうとして聴く話の聴き方）を高める取組を全校体制で行ってきました。その中で、この二つの取組により、当校の子どもには、次のような資質・能力が育成されていることが見えてきました。

他者と目的や課題を共有し、互いのよさや多様性を生かして課題解決する力

私たちはこの資質・能力を協働性と定義し、教育課程で育成する資質・能力の一つの柱としました。

そして、主に「学級力」や「対話する」スキルを高める取組を行う「クラスカルチャータイム」、授業や学校行事、特別活動において、協働性を発揮させ、新たに校時表に位置付けた「リフレクションタイム」で協働性の自覚を促す取組を繰り返すことで、協働性を育成しています。

また、協働性育成の取組を全校体制で推進するために、「協働性育成プロジェクト部会」を組織し、部会が中心となって、毎月取組のPDCAを行っています。

このような取組により、授業はもちろん、様々な場面で協働性を発揮して課題解決することができる子どもが育っています。

(3) ツール活用能力の育成

当校では、平成25年度からタブレット端末を中心としたICTの環境整備と授業研究を進めてきました。同時に、思考ツールを活用した授業研究も行ってきました。

その中で、ICTも思考ツールも、目的や課題を達成・解決するために有効なツール（道具）として共通していることや、当校の子どもには、次のような資質・能力が育成されていることが見えてきました。

目的や課題に応じて、ツール（ICTや思考ツール等）を適切かつ有効に活用する能力

私たちはこの資質・能力をツール活用能力と定義し、教育課程で育成する資質・能力の一つの柱としました。

そして、「ツール活用能力一覧表」を基にして、各教育活動で子どもに育成したいツール活用能力を発揮させ、前述した「リフレクションタイム」でツール活用能力の自覚を促す取組を繰り返すことで、ツール活用能力を育成しています。

また、ツール活用能力育成の取組を全校体制で推進するために、「ツール活用能力育成プロジェクト部会」を組織し、部会が中心となって、毎月取組のPDCAを行っています。

このような取組により、目的や課題に応じてツール活用能力を発揮し、課題解決することができる子どもが育っています。

(4) 各種計画等の実施と改善

「年間指導計画」「各種教育計画」「校時表」等、学校には様々な計画が存在します。これらの計画等は、教育課程の心臓部であり、前述の基本方針や各取組の方針に沿った計画であることと、実施した成果と課題を基に、改善することが、教育課程の実現につながります。

当校では、「研究部」と「カリキュラム・マネジメント部会」が中心となり、全職員でこれらの計画のPDCAを行っています。

例えば、「年間指導計画」「各種教育計画」「資質・能力一覧表」は、毎学期毎に全職員でPDCAを行うことで、より「豊かに考える子ども」を育むことができる計画等に改善しています。

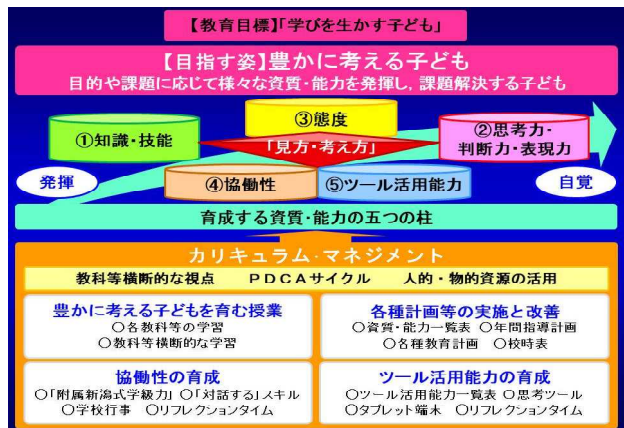


特に、「年間指導計画」については、全学年分を教務室の掲示板に貼り出し、日頃から全職員でアドバイスし合える環境をつくっています。

また、全職員がこれらの計画等を自分の手元に持っていることで、日々教育活動のPDCAを行うことができます。

4 おわりに

下図は当校のカリキュラム・マネジメントのビジョンです。



前述のとおり、今年度は「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」に向け、新学習指導要領で示された「カリキュラム・マネジメントの三つの側面」を意識して、カリキュラム・マネジメントを進めています。

2月8日（木）、9日（金）に開催する「初等教育研究会」では、当校のカリキュラム・マネジメントの取組と成果を、各教諭の授業、全体発表、三つのフォーラム、そして、研究紀要第75集で具体的に提案します。